

第16回京都民医連看護・介護学会

ケアとまちづくり

京都民医連の新たな一歩

【開催日時】2023年9月23日(土・祝)

【会場】京都民医連中央病院・京都保健会

【開場】12:00 開始12:30~17:00

シンポジウム

ケアのデザインin京都

水原 祐起

特定非営利活動法人SEEDきょうと 理事長

布施 美幸

レビー小体型認知症サポートネットワーク京都 代表

松浦 千恵

バザールカフェ:Bazaar Cafe

演題発表

53演題

講評

松岡千代

甲南女子大学
看護リハビリテーション学部
看護学科

【随時更新】京都民主医療機関
連合会ホームページに情報あり
<http://www.kyoto-min-iren.org/>



主催：京都民医連 看護部 看護学会委員会

目次

大会概要・開場案内	2
実行委員長挨拶	3
プログラム	4
開場別・タイムスケジュール	5
演題発表者の方へ・座長・協力員の方へ	6
シンポジウム	7
一般演題	9
看護・介護研究への講評 指定演題	14
院所別演題一覧	15

集録集

[大会概要]

学会テーマ：ケアとまちづくり～京都民医連の新たな一歩～

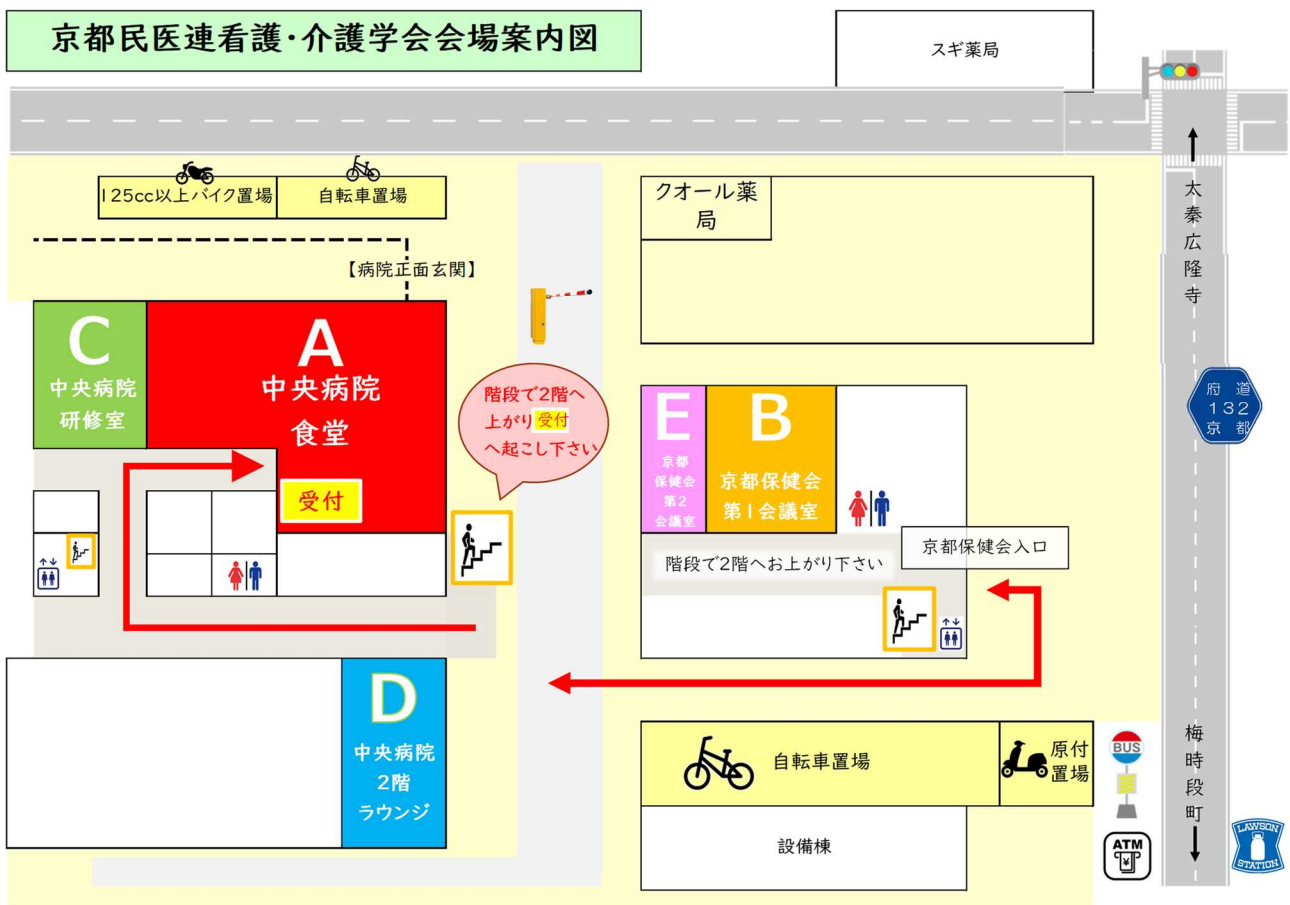
開催日時：2023年9月23日（土・祝） 12:30～17:00

会場：京都保健会・京都民医連中央病院

主催：京都民医連 看護部 看護学会委員会

[開場案内] 公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院

〒616-8147 京都府京都市右京区太秦土本町2番1



実行委員長挨拶

『人は病気を治すことを中心に生きて生活しているわけではない』
臨床で働くなかで心にとめている言葉です。

エピソードを1つ。治療しても腰痛が残る高齢者の痛みを緩和できないものかと考えていた時、その人は言いました。「ぼちぼちやれてるで。うどん屋つづけてる。お客さんが、運んで片付けてくれるセルフの店になったんや。わははっ!」。この患者さんの痛みの緩和には、治療以外にも続けてきた仕事や人とのつながりが重要であること、豪快に笑い飛ばすその人の強さに気づいた出来事でした。

どんな激動の時代においても、暮らしを軸にした医療・福祉へのニーズは変わりません。今回の学会テーマに掲げた『ケアとまちづくり～京都民医連の新たな一歩～』を、皆様とともに明るく「わははっ!」と踏みだせるような学会にしたいと思います。

今回のシンポジウムテーマ「ケアのデザイン in 京都」をまさに「実践」している医療・福祉専門職3名にご登壇いただきます。水原氏は、拒食症のある人を支援するNPO法人を立ち上げ活動されています。布施氏は、レビー小体型認知症サポートネットワーク京都の代表を務め、相談の場づくりをされています。松浦氏はアルコール依存症を含め、多様な背景をもつ人の居場所づくりをされています。

当事者と共に、京都の地で、人と人がつながる場づくりの実践から、『新たな一歩』を確認したいと思います。

演題発表は、53演題を予定しています。松岡千代先生（甲南女子大学看護リハビリテーション学科看護学部老年看護学 教授）の教育支援のもと、看護・介護研究を進めてきました。山あり谷ありではありますが、『日々の実践で大切にしていることがある』、ここに確信をもって取り組みました。

いずれの演題発表も、臨床での疑問から出発しています。京都民医連で働くなかで生まれた研究活動の成果を共有し、交流できるよう準備を進めています。

他にも、物販コーナーでは、NPO法人SEEDきょうとのアイテム商品や珈琲&お菓子の販売をします。ぜひとも楽しんでご利用ください。

本学会が、自由でゆたかな学びと交流が生まれる場となることを祈念するとともに、開催に向けご尽力いただく皆様に感謝申し上げます。

冒頭の言葉は、民医連の水俣診療所で訪問看護を始めた上野恵子さんのものです。

京都民医連看護学会 委員長 長谷川 美智子
京都民医連中央病院

プログラム

12:00 開場

12:30-12:40(10分)

1. 開会の挨拶 案内

12:40-14:00(80分)

2. シンポジウム『ケアのデザイン in 京都』

シンポジスト:水原 祐起(特定非営利活動法人 SEED きょうと 理事長/精神科医)

布施 美幸(居宅介護支援事業所 恵 所長)

レビー小体型認知症サポートネットワーク京都 代表/ケアマネジャー)

松浦 千恵(バザールカフェ:Bazaar Cafe 運営スタッフ/精神保健福祉士)

<休憩・移動>(15分) 物販コーナー:SEED きょうと のアイテム、珈琲&焼き菓子

14:15-15:40(85分)

3. 演題発表:50演題(口演:20演題・示説/ポスター:30演題)

A 中央病院 食堂:【口演】	B 京都保健会 第1会議室:【口演】	C 中央病院 研修室:【示説】	D 中央病院 ラウンジ:【示説】	E 京都保健会 第2会議室:【示説】
O:1-10	O:11-20	P:21-30	P:31-40	P:41-50

<休憩・移動>(15分) 物販コーナー:SEED きょうと のアイテム、珈琲&焼き菓子

15:55-16:50(55分)

4. 看護・介護研究への講評

松岡千代先生(甲南女子大学看護リハビリテーション学科看護学部老年看護学 教授)

・指定演題発表 3演題(6分×3名 18分)+質疑応答(7分) 25分

・松岡先生 講評(20分)

・意見交換・質問(10分)

16:50 優秀ポスター(示説)発表

閉会の挨拶

公益社団法人信和会 京都民医連あすかい病院 看護部長 征矢陽子

16:55 アンケート記入 終了

9/23(土・祝) 会場別 タイムスケジュール

	A 中央病院 食堂	B 京都保健会 第1会議室	C 中央病院 研修室	D 中央病院 2階ラウンジ	E 京都保健会 第2会議室
1200					
	12:30 ▶ 12:40 開会式				
	12:40 ▶ 14:00				
1300	シンポジウム 『ケアのデザイン in京都』 演者:水原 祐起 布施 美幸 松浦 千恵				
1400	14:15 ▶ 15:40	14:15 ▶ 15:40	14:15 ▶ 15:40	14:15 ▶ 15:40	14:15 ▶ 15:40
	演題発表 【口演】 O:1-10	演題発表 【口演】 O:11-20	演題発表 【示説】 P:21-30	演題発表 【示説】 P:31-40	演題発表 【示説】 P:41-50
1500					
1600	15:55 ▶ 16:50 看護・介護研究講評 ◎指定演題発表 ◎松岡千代 老年看護学教授 ◎意見交換・質問				
	16:50 優秀ポスター発表 閉会の挨拶				

演題発表者の方へ

■口演発表者

- ・ 座長の進行に基づいて、発表してください。
- ・ 発表時間は6分です。

■ポスター発表者

- ・ 発表 10 分前には、ご自身のポスターの前に集合してください。
- ・ 座長の進行に基づいて、発表してください。
- ・ 発表時間は6分です。
- ・ 発表内容を評価し、優秀ポスターを選考します。

【ポスター貼付時間】

9月23日(土) 11:30～12:20

【ポスター撤去時間】

9月23日(土) 17:00～17:20

座長・協力員の方へ

■座長

1. 座長の集合について

- ・ 担当するセクションの集録を読み、確認してきてください。
- ・ 担当するセクション開始 10 分前までには、お集まりください。県連学会委員がいますので、発表者順を確認してください。

2. 進行について

- ・ 1演題の発表時間は 6 分です。
- ・ 5演題発表後に質疑応答を行ってください。
- ・ 時間通りの運営をお願いします。

[必要なオリエンテーションの内容]

- ・ 開始します。座長の「所属・氏名」です。
- ・ 発表時間は6分です。5演題発表後、質疑応答を行います。
- ・ 質問者は、所属・氏名を述べた後、質問するようにしてください。
- ・ (終了後)これで終わります。休憩後、15:55から開始ですので、A 会場に集合してください。

■協力員

- ・ 担当するセクション開始 10 分前までには、お集まりください。座長と県連学会委員の指示に従ってください。

ケアのデザイン in 京都

水原 祐起

特定非営利活動法人 SEED きょうと 理事長

布施 美幸

レビー小体型認知症サポートネットワーク京都 代表

松浦 千恵

Bazaar Cafe 運営スタッフ

略歴

水原 祐起

平成18年 3月 京都府立医科大学医学部医学科 卒業後 京都第一赤十字病院にて研修

平成20年 4月より京都府立医科大学 精神科 入局

平成23年10月より京都府立医科大学大学院 医学研究科 精神機能病態学 助教

その後、京都府の公立病院や精神保健センター勤務等を経てイギリス、ロンドンのモーズレイ病院の摂食障害臨床研究部門に半年間留学。

平成29年12月より現職の京都府立こども発達支援センター 精神科医長

平成27年 特定非営利活動法人 SEED きょうとを設立

平成29年11月より同法人 副理事長、

令和 2年12月より理事長

令和 5年10月 みずはらクリニック開院予定

特定非営利活動法人
SEED きょうと



略歴

布施 美幸

2016年 7月 クローバー居宅介護支援サービス管理者

日本ケアマネジメント学会 認定ケアマネジャー取得

2018年 1月 レビー小体型認知症サポートネットワーク京都 代表

2021年 12月 居宅介護支援事業所 恵 開業

レビー小体型認知症
サポートネットワーク京都



略歴

松浦 千恵

同志社大学社会学部社会福祉学科卒

社会福祉士・精神保健福祉士・ASK 認定依存症予防教育アドバイザー

安東医院（依存症専門クリニック）精神科ソーシャルワーカー

バザールカフェ 事務局スタッフ兼ソーシャルワーカー

同志社大学非常勤講師（精神保健福祉演習・実習）

Bazaar Cafe



京都における摂食障害に対する社会福祉活動～NPO 法人 SEED きょうと 12 年の活動～

「SEED きょうと」は平成 23 年に京都で摂食障害者を支援する任意団体として、家族教室や一般市民向け講演会、支援者育成のための講習会などの活動を開始し、摂食障害の家族会「らくの会」も設立しました。平成 25 年には当事者の利用できる通所支援施設の自主運営を開始し、平成 27 年に NPO 法人格を取得した後、民間の助成金を活用しながら通所施設の拡充を行い、平成 30 年 4 月 1 日に「就労継続支援 B 型事業所 プティパ」として現行の障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業を開始しています。さらに令和 3 年 4 月には「訪問看護ステーション らぐれーぬ」を開設し、来所が困難な方などに対するアウトリーチによる医療的支援も開始しました。

このような活動を開始した背景としては、摂食障害者の回復をサポートしていくにあたって、主に体重増加や食行動異常の改善を主とした医療的な介入のみでは、その後の自宅療養や社会復帰の段階において躓きが生じ、精神症状や食行動異常が再燃するといった問題があったためです。本質的なリカバリーを得るためには、発症の背景となった不安になりやすい特性や、集団活動の苦手さ、自己評価の低さなどを乗り越えていく必要があります。それは当事者にしか取り組めない課題であるとともに、当事者だけでは乗り越えられない課題でもあります。疾患の特性から通所が不安定になるなど、事業運営上の難しさも抱えていますが、他の様々な摂食障害支援事業や各種助成金、寄付などを合わせて、持続可能な法人運営を模索しています。

現在、ご寄付いただいた方に税制上の優遇措置が得られる「認定 NPO 法人」となるための申請を進めております。当法人の活動にご賛同いただける方は、ぜひ「マンスリーサポーター」として、運営をサポートしていただけると光栄です。



←NPO 法人 SEED きょうと マンスリーサポーター (READY FOR)

また、プティパでは利用者さんの作成したピアスや箸置きなど、京都らしい商品をオンラインで販売しておりますので、そちらもぜひご覧ください。



←プティパ ネットショップ

特定非営利活動法人SEEDきょうと
水原 祐起

座長:大森桂子(公益社団法人京都保健会 吉祥院病院)

松田典子(公益社団法人京都保健会 洛北診療所)

-
- O-1. 独身中年男性のⅡ型糖尿病のセルフケア促進に関わって
～セルフケアの確立因子とは～**
○高木麻起子 川西友栄
医療法人葵会 上賀茂診療所
- O-2. COVID-19 病棟における直腸便貯留観察にエコーを用いた排便ケアの効果**
○鏡光里
公益社団法人 京都保健会 京都民医連中央病院 3A 病棟
- O-3. 緩和ケア病棟入院患者の医療用麻薬に対する思い
～戦争体験をもつ患者の医療麻薬に対する思いから～**
○小曾原由夏 後藤永
公益社団法人 信和会 京都民医連あすかい病院 南3階病棟
- O-4. 人間の生理学的能力を根拠にした A 施設での取り組み
人間の尊厳を重視した排泄ケアの在り方を探る**
○鶴田豊 田中典子 米田喜美子
公益社団法人 信和会 介護医療院 茶山のさと
- O-5. 高齢外来患者に対するフレイル予防の取り組み
～ラジオ体操再開とコグニサイズの導入による効果～**
○林美穂 南崎涼子 松田典子
京都民医連洛北診療所
- O-6. 無気力な患者のインスリン自己注射手技獲得に向けて
～主体的な糖尿病自己管理へ向けた支援～**
○河野由佳 坂口亜友美 藤林孝子
公益社団法人 京都保健会 久世診療所
- O-7. 患者に応じた個別ケアを見出し身体拘束をしないケアの検討
～身体拘束ガイドラインに基づき安全安楽な環境を目指して～**
○森本真次 松田仁美 小前田かなえ
公益社団法人京都保健会 吉祥院病院 病棟看護課
- O-8. 介護方法の指導が実施に結びつかなかった事例を振り返って
～男性介護者の特性を知る～**
○佐藤裕子 塩見さおり 池原史子 中谷砂由理
公益社団法人 京都保健会 ほっとステーション きぼう
- O-9. 外来看護師による患者の自宅訪問の効果**
○岩井 尚美 黒川 靖花
京都民医連太子道診療所
- O-10. PCEA による術後疼痛管理を受けている高齢患者の
術後疼痛管理の効果と手術室看護師の役割**
○寺井 歩
公益社団法人 京都保健会 京都民医連中央病院 手術室

座長：高橋明子（医療法人葵会 紫野協立診療所）

水野夏苗（公益社団法人京都保健会 吉祥院病院）

O-11. 在宅看取りに対して揺れ動く家族を支える

外来・訪問診療に関わる看護師の現場から

○折笠希世 上田有美 景山成子

公益社団法人信和会 東山診療所

O-12. 糖尿病を悪化させないソーシャルサポートの構築

高齢独居者への訪問診療看護師としての介入 SDH の視点で見えたこと

○高橋元美 川西瞳

公益社団法人信和会 川端診療所 外来看護

O-13. 在宅看取りにおける介護者の介護負担感に着目して得た看護

～ 非がん療養者を看取る介護者の心の変化を通して ～

○栃木厚子 牧田留美子

公益社団法人信和会 訪問看護ステーションどんぐり

O-14. メディカルケアステーションを効果的に活用できた事例

～多職種連携に必要なこと～

○那倉まゆみ 菅都麦

医療法人葵会総合ケアステーション 訪問看護

O-15. セルフネグレクトをきたし介入を拒む A 氏の在宅生活に寄り添う

支援内容を充実し安全な生活につなげるために

○岩井貴美子 迫千登勢 山本美千江 大槻佐知子

公益社団法人京都保健会 九条診療所

O-16. 訪問看護における在宅看取りでの家族支援について考える

～在宅看取りを体験された家族の死別後の自己肯定感や成長感の獲得～

○吉本美代子 辻智恵 福意貴司 西尾美佐江

公益社団法人京都保健会 ふれあいステーションゆきわり

O-17. 摂食嚥下障害がある患者の望みを支えた多職種連携について明らかにする

～「好きなものを食べたい」をかなえる為に～

○辻恵美子 前田勝美 津川華苗江 池森恵 田和美春 山下方子 鈴木智子

公益社団法人京都保健会 春日診療所 看護部

O-18. 回復期リハビリテーション病棟におけるスピーチロック解除に向けた関わり

○奥田秀亮 大藤彩美 山根和也 藪中博章 国師日菜子

公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院 回復期リハビリテーション病棟

O-19. 長期血液透析通院している高齢患者との関わりを通して

～患者の意思決定を支える～

○久保あゆみ 溝口順也

公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院 腎センター

O-20. 高齢者の腹膜透析導入時の支援方法について

～認知機能低下のある患者への指導を通して～

○岩井慶子 山本夏海

公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院 4A病棟

座長:前田勝美(公益社団法人京都保健会 春日診療所)

梅原訓子(公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院)

P-21. 訪問診療開始時の面談で行う意思決定支援

～A 診療所での実態調査より～

○中井勝博

公益社団法人信和会 大宅診療所

P-22. 認知症独居患者の退院支援調整

～退院支援調整スクリーニングシートを用いて～

○林舞 檜美里

公益社団法人信和会 京都民医連あすかい病院 北3病棟

P-23. 訪問看護師の遺族ケア・遺族サポートを考える

～ 看取り支援からみえたもの ～

○河波恵巳 鷗野田晴美

公益社団法人信和会 訪問看護ステーションひまわり

P-24. 看護学生が認識する「臨地実習カンファレンス」とは

○塚田みのり 江藤美佐子 熊谷真由実 吹田麻実

公益社団法人京都保健会 近畿高等看護専門学校

**P-25. がんターミナル患者への SICG を用いたアドバンス・ケア・プランニング
積極的な ACP を目指したきっかけづくり**

○武田由紀 田中亜耶 磯本隆広

公益社団法人京都保健会 吉祥院病院 在宅看護課

P-26. 転倒ハイリスク患者への転倒転落予防対策に対する評価

～多職種カンファレンスを実践して～

○滝下蘭子 廣田健一 松田龍二 樋口まなみ

公益社団法人京都保健会 京都協立病院 4階病棟・地域包括ケア病棟

P-27. 訪問看護師が臨床で判断する時の重圧感を軽減する取り組み

○畑中久美子 山本陽子 柴山由美子

公益社団法人京都保健会 訪問看護ステーションゆたかの

P-28. 独居の糖尿病を抱えた利用者に対する食事療法に関する課題

—体重増加、義歯の不適合、菓子パン摂取の悪循環を繰り返した事例から—

○松江 寿美子

公益社団法人京都保健会 総合ケアステーションわかば

P-29. 認知症のある患者の大腿骨骨折術後の疼痛緩和に向けた取り組み

～Abbey Pain Scale を用いた痛みの評価～

○松田哲也 田地未来

公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院 2C病棟

P-30. 消化器内科病棟における癌告知後患者へのケアに対する看護師の困難感について

○森本楓子 関優香

公益社団法人 京都保健会 京都民医連中央病院 4B病棟

座長：柳田睦子（公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院）

村山利江（公益社団法人京都保健会 京都協立病院）

**P-31. 「帰りたい」という発言を認める認知症高齢者にバリデーション療法を用いたケアの効果
患者の気持ちを汲み取る**

○洞林那桜

公益社団法人信和会 京都民医連あすかい病院 南2病棟

**P-32. 内服管理が困難である独居の外来通院患者への支援について
～社会・生活背景を知ったうえでのチーム医療～**

○松本真帆 木村江位子 村上明彦 森山咲織

公益社団法人信和会 京都民医連あすかい病院 外来

P-33. 在宅看取り期における代理意思決定を行う家族のACPアプローチ

○麥谷 真美 勝野由起恵

公益社団法人信和会 訪問看護ステーションたんぼぼ

**P-34. 小児科外来での看護記録の効率化に向けて
看護師への意識調査からみえたこと**

○善明実 岡本由美子 平塚寛 山本里穂

公益社団法人京都保健会 吉祥院こども診療所

P-35. 外来受診を中断した患者へのアプローチの効果

○伊勢智 乾香織

公益社団法人京都保健会 吉祥院病院 外来看護課

**P-36. 回復期リハビリテーション病棟における認知症マフ活用の効果
～身体拘束ゼロに向けて～**

○野村友莉 古高多聞 荒木賢二 山下めぐみ

公益社団法人京都保健会 京都協立病院 回復期リハビリテーション病棟

P-37. 入院を繰り返す心不全高齢利用者への訪問看護師による再入院予防のためのアプローチ

○奥村美希 下之内暢子

公益社団法人京都保健会 訪問看護ステーション太秦安井

**P-38. プロポフォールによる鎮静下内視鏡を受検した患者へのインタビュー報告
～体重増加、義歯の不適合、菓子パン摂取の悪循環を繰り返した事例から～**

○大内健太郎 松本あずさ

公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院 外来

P-39. 循環器病棟におけるプロトコルを用いたせん妄予防ケア

○上坂華風 鈴木陽 内藤惇矢

公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院 3B病棟

P-40. 混合病棟におけるハドルミーティングの取り組み

○荒木良太 澤田智美 中塚祐菜

公益社団法人 京都保健会 京都民医連中央病院 4C病棟

座長:西田純江(公益社団法人京都保健会 近畿高等看護専門学校)

佐藤ひろみ(公益社団法人京都信和会 京都民医連あすかい病院)

P-41. 回復期リハビリテーション病棟における高齢患者の「趣味・生きがい」による自発性へのアプローチ

○西田 開

公益社団法人信和会 京都民医連あすかい病院 回復期リハビリテーション病棟

P-42. 高齢血液透析患者の運動療法の一事例

○白川 京

公益社団法人信和会 川端診療所 透析センター

**P-43. 浣腸を使用した排便コントロールの見直し
自然排便をめざして**

○犬石 進 田波 英五郎

医療法人葵会 介護医療院 おおみや葵の郷 看護介護部

**P-44. プライマリ・ケアを担う看護師の役割
～地域の人々の生活を支える診療所をめざして～**

○藤田 彩

医療生協 あさくら診療所

P-45. 「石綿に関する健康管理手帳」所持者の健康診断受診者が抱える健康不安について

○河田 朝子

一般財団法人京都労働災害被災者援護財団 京都市城南診療所 看護課

P-46. 外来診療における採血待ち時間短縮に向けての取り組み

○阪梨 知代 前田 さや子 佐藤 真由美 田中 久美子

公益社団法人京都保健会 京都協立病院 外来

**P-47. 訪問診療を行っている慢性心不全患者の病状コントロール状況についての検討
-安定しているケースと不安定なケースについての比較検討-**

○植田 あずさ 真柄 明子

公益社団法人京都保健会 上京診療所

**P-48. 低血圧患者による排泄フローチャートの取り組みについて
～多職種カンファレンスやプロトコルの実践～**

○井上 左知夫 永金 育美 中島 智子

公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院 地域包括ケア病棟

**P-49. 自閉スペクトラム症を合併した妊産婦との関わりから得た育児支援
チームで支える新しい命**

○由良 紗季 岡田 裕子 中西 貴美子

公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院 3C病棟

**P-50. 緩和ケア病棟における終末期がん患者の日常生活動作障害の出現と生存期間に関する考察
-年齢層別の比較検討-**

○佐々木 智恵美 船吉 由実 加藤 直子

公益社団法人 京都保健会 京都民医連中央病院 緩和ケア病棟

座長：川西 友栄（医療法人葵会 上賀茂診療所）

土居原 美岐（公益社団法人京都保健会 吉祥院病院）

講師：松岡 千代氏（老年看護学 教授 甲南女子大学 看護リハビリテーション学部 看護学科）

指定演題：

1. HCU (High Care Unit)におけるプロトコル導入の取り組みについて

早期リハビリテーションに焦点を当てて

○長崎燎 井上瑞希

公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院 HCU 病棟

2. 高齢者脊髄損傷による手指拘縮改善への支援

～温電法とマッサージによる 10 年間続いた苦痛改善に向けて～

○金定光代 長澤秀美 吉田美保 吉見真弓

公益社団法人京都保健会 あやべ協立診療所

3. 利用者の自律に繋がった訪問看護支援の一考察

—脳幹出血により重度身体障がい者となった 30 歳代女性の 10 年間の支援をとおして—

○高野 聖子

公益社団法人京都保健会 吉祥院訪問看護ステーション

		院所・部署名	演者（発表者）	テーマ	セッション 分け	
信和会	1	京都市民連あすかい病院 外来	松本 真帆	内服管理が困難である独居の外来通院患者の支援について ～社会・生活背景を知ったうえでチーム医療～	P	32
	2	京都市民連あすかい病院 南2病棟	洞林 那桜	「帰りたい」という発言を認める認知症高齢者にバリデーション療法を用いたケアの効果 患者の気持ちを汲み取る	P	31
	3	京都市民連あすかい病院 南3病棟	小曾原 由夏	緩和ケア病棟入院患者の医療用麻薬に対する思い ～戦争体験をもつ患者の医療麻薬に対する思いから～	O	3
	4	京都市民連あすかい病院 回復期リハビリテーション病棟	西田 開	回復期リハビリテーション病棟における高齢患者の 「趣味・生きがい」による自発性へのアプローチ	P	41
	5	京都市民連あすかい病院 北3病棟	林 舞	認知症独居患者の退院支援調整 ～退院支援調整スクリーニングシートを用いて～	P	22
	6	川端診療所 外来看護	高橋 元美	糖尿病を悪化させないソーシャルサポートの構築 高齢独居者への訪問診療看護師としての介入SDHの視点で見えたこと	O	12
	7	川端診療所 透析センター	白川 京	高齢血液透析患者の運動療法の一事例	P	42
	8	大宅診療所	中井 勝博	訪問診療開始時の面談で行う意思決定支援 ～A診療所での実態調査より～	P	21
	9	介護医療院 茶山のさと	田中 典子	人間の生理学的能力を根拠にしたA施設での取り組み 人間の尊厳を重視した排泄ケアの在り方を探る	O	4
	10	東山診療所	折笠 希世	在宅看取りに対して揺れ動く家族を支える 外来・訪問診療に関わる看護師の現場から	O	11
	11	洛北診療所	林 美穂	高齢外来患者に対するフレイル予防の取り組みについて ～ラジオ体操再開とコグニサイズの導入をしてみよう～	O	5
	12	訪問看護ステーションどんぐり	栃木 厚子	在宅看取りにおける介護者の介護負担感に着目して得た看護 ～ 非がん療養者を看取る介護者の心の変化を通して ～	O	13
	13	訪問看護ステーションひまわり	河波 恵巳	訪問看護師の遺族ケア・遺族サポートを考える ～看取り支援からみえたもの～	P	23
	14	訪問看護ステーションたんぼぼ	麥谷 真美	在宅看取り期における代理意思決定を行う家族のACPアプローチ	P	33
南	1	吉祥院病院 外来看護課	伊勢 智	外来受診を中断した患者へのアプローチの効果	P	35
	2	吉祥院病院 在宅看護課	武田 由紀	がんターミナル患者へのSICGを用いたアドバンス・ケア・プランニング 積極的なACPを目指したきっかけづくり	P	25
	3	吉祥院病院 病棟看護課	松田 仁美	患者に応じた個別ケアを見出し身体拘束をしないケアの検討 ～身体拘束ガイドラインに基づき安全安楽な環境を目指して～	O	7
	4	吉祥院こども診療所	善明 実	小児科外来での看護記録の効率化に向けて 看護師への意識調査からみえたこと	P	34
	5	吉祥院訪問看護ステーション	高野 聖子	利用者の自律に繋がった訪問看護支援の一考察 一脳幹出血により重度身体障がい者となった30歳代女性の10年間の支援をとおして一	指定演題	
	6	久世診療所	河野 由佳	無気力な患者のインスリン自己注射手技獲得に向けて ～主体的な糖尿病自己管理へ向けた支援～	O	6
	7	京都城南診療所	河田 朝子	「石綿に関する健康管理手帳」 所持者の健康診断受診者が抱える健康不安について	P	45
	8	九条診療所	岩井 貴美子	セルフネグレクトをきたし介入を拒むA氏の在宅生活に寄り添う 支援内容を充実し安全な生活につなげるために	O	15
	9	あさくら診療所	藤田 彩	プライマリ・ケアを担う看護師の役割 ～地域の人々の生活を支える診療所をめざして～	P	44
北部	1	京都協立病院 回復期リハビリテーション病棟	野村 友莉	回復期リハビリテーション病棟における認知症マフ活用の効果 ～身体拘束ゼロに向けて～	P	36
	2	京都協立病院 地域包括病棟	滝下 蘭子	転倒・ハイスリク患者への転倒転落予防対策に対する評価 ～多職種カンファレンスを実践して～	P	26
	3	京都協立病院 外来	阪梨 知代	外来診療における採血待ち時間短縮に向けての取り組み	P	46
	4	あやべ協立診療所	金定 光代	高齢者脊髄損傷による手指拘縮改善への支援 ～温電法とマッサージによる10年間続いた苦痛改善に向けて～	指定演題	
	5	ふれあいステーションゆきわり	吉本 美代子	訪問看護における在宅看取りでの家族支援について考える ～在宅看取りを体験された家族の死別後の自己肯定感や成長感の獲得～	O	16
	6	ほっとステーション きぼう	佐藤 裕子	介護方法の指導が実施に結びつかなかった事例を振り返って ～男性介護者の特性を知る～	O	8
	7	訪問看護ステーションゆたかの	畑中 久美子	訪問看護師が臨床で判断する時の重圧感を軽減する取り組み	P	27

		院所・部署名	演者（発表者）	テーマ	セッション 分け	
奨 会	1	医療法人 葵会 上賀茂診療所	高木 麻起子	独身中年男性のⅡ型糖尿病のセルフケア促進に関わって ～セルフケアの確立因子とは～	O	1
	2	葵会総合ケアステーション 訪問看護	那倉 まゆみ	メディカルケアステーションを効果的に活用できた事例 ～多職種連携に必要なこと～	O	14
	3	おおみや葵の郷 看護介護部	犬石 進	浣腸を使用した排便コントロールの見直し 自然排便をめざして	P	43
近 看	1	近畿高等看護専門学校	塚田 みのり	看護学生が認識する「カンファレンス」とは	P	24
中 央	1	京都民医連中央病院 緩和ケア病棟	佐々木 智恵美	緩和ケア病棟における終末期がん患者の日常生活動作障害の出現と 生存期間に関する考察 一年齢層別の比較検討～	P	50
	2	京都民医連中央病院 地域包括ケア病棟	井上 左知夫	低血圧患者による排泄フローチャートの取り組みについて ～多職種カンファレンスやプロトコルの実践～	P	48
	3	京都民医連中央病院 回復期リハビリテーション病棟	奥田 秀亮	回復期リハビリテーション病棟におけるスピーチロック解除に向けた関わり	O	18
	4	京都民医連中央病院 2C病棟	松田 哲也	認知症のある患者の大腿骨骨折術後の疼痛緩和に向けた取り組み ～Abbey Pain Scaleを用いた評価～	P	29
	5	京都民医連中央病院 3A病棟	鏡 光里	COVID-19病棟における直腸便貯留観察にエコーを用いた排便ケアの効果	O	2
	6	京都民医連中央病院 3B病棟	上坂 華風	循環器病棟におけるプロトコルを用いたせん妄予防ケア	P	39
	7	京都民医連中央病院 3C病棟	由良 紗季	自閉スペクトラム症を合併した妊産婦との関わりから得た育児支援 チームで支える新しい命	P	49
	8	京都民医連中央病院 4A病棟	岩井 慶子	高齢者の腹膜透析導入時の支援方法について ～認知機能低下のある患者への指導を通して～	O	20
	9	京都民医連中央病院 4B病棟	森本 楓子	消化器内科病棟における癌告知後患者へのケアに対する看護師の困難感について	P	30
	10	京都民医連中央病院 4C病棟	荒木 良太	混合病棟におけるハドルミーティングの取り組み	P	40
	11	京都民医連中央病院 HCU病棟	長崎 燎	HCU (High Care Unit)におけるプロトコル導入の取り組みについて 早期リハビリテーションに焦点を当てて	指定演題	
	12	京都民医連中央病院 外来	大内 健太郎	プロボフォルによる鎮静下内視鏡を受検した患者へのインタビュー報告	P	38
	13	京都民医連中央病院 腎センター	久保 あゆみ	長期血液透析通院している高齢患者との関わりを通して ～患者の意思決定を支える～	O	19
	14	京都民医連中央病院 手術室	寺井 歩	PCEAによる術後疼痛管理を受けている高齢患者の 術後疼痛管理の効果と手術室看護師の役割	O	10
	15	京都民医連太子道診療所	岩井 尚美	外来看護師による患者の自宅訪問の効果	O	9
	16	春日診療所	辻 恵美子	摂食嚥下障害がある患者の望みを支えた多職種連携について明らかにする ～「好きなものを食べたい」をかなえる為に～	O	17
	17	上京診療所	植田 あずさ	訪問診療を行っている慢性心不全患者の病状コントロール状況についての検討 ～安定しているケースと不安定なケースについての比較検討～	P	47
	18	訪問看護ステーション太秦安井	奥村 美希	「入院を繰り返す心不全高齢利用者への 訪問看護師による再入院予防のためのアプローチ」	P	37
	19	総合ケアステーションわかば	松江 寿美子	独居の糖尿病を抱えた利用者に対する食事療法に関する課題 ～体重増加、義歯の不適合、菓子パン摂取の悪循環を繰り返した事例から～	P	28

第16回京都民医連看護・介護学会 企画運営委員

江藤 美佐子 近畿高等看護専門学校

大槻 三由樹 京都協立病院

川西 友栄 上賀茂診療所

多田 有里子 京都民医連太子道診療所

殿村 冴香 京都民医連あすかい病院

土居原 美岐 吉祥院病院

布留川 美帆子 京都民医連中央病院

藤田 紫保 京都民医連中央病院

長谷川 美智子 京都民医連中央病院

山田 陽子 訪問看護ステーションひまわり

Special Thanks to 倉田幹子!!京都民医連中央病院